

## 第1学年芸術科学習指導案

実施期日	平成28年11月30日(水)第4校時
実施学級	第1学年3組 (男子13名 女子14名)
指導者	教諭 瀬田 恵子

### 1 題材名

言葉や音階の特徴を生かし、表現を工夫して作曲しよう  
～曲種にあった音楽作り～

### 2 題材について

(1) 生徒の実態 (略)

(2) 題材設定の意図

中学までに楽譜を読むことを習得している生徒が少なく、知っている曲を歌ったり演奏したりすることには意欲的だが、楽譜に書かれていることを自分で読み取ることに関して苦手意識の高い生徒が比較的多いことが分かった。そこで、実際に自ら読譜をして音楽を創り出したり、表現に活かしたりする力を養いたいと思い、1学期には楽典を学び、2学期からは聴音を取り入れている。9月～10月まではハ長調4分の4拍子、4小節、リズムは二分音符のみという課題を行ってきた。(中略) 1学期に楽典を学び、知識と実践を身につけることをねらいとして聴音を行いながら、音符や休符の長さの理解を深め、また音感を高めてきたが、この題材では、これまでの学習を自ら生かす必要性を生じる。自分が表現したいことがあっても、どのように楽譜に書いたらよいかわからない、という状況を味わう中で、これまでの学習を振り返るとともに、その理解を深める機会としたい。また、作曲というと、「難しい」と思う生徒が多い中で、いかに、そのハードルを下げながら、達成感や充実感を生徒に味わわせることができるかが課題である。作曲の基礎編では、一人一人が自分で考える活動を、応用編では、一人一人が身に付けた力やそれぞれの創造力を集結して、グループでの作曲活動に意欲的に取り組ませ、創造すること、表現することの面白さや楽しさを味わわせたい。

### 3 題材の目標

(1) 音と音とのかかわりに関心を持ち、創作する学習に主体的に取り組む。

(音楽への関心・意欲・態度)

(2) 旋律やテクスチャを知覚して、その特質や雰囲気を感じて、音程や楽曲構成の特徴を活かした音楽表現を工夫してどのように旋律の創作をするか思いや意図をもつ。

(音楽表現の創意工夫)

(3) 楽器の音色を生かしながら、音楽表現を工夫する技能を身に付け小アンサンブルを楽しむ。

(音楽表現の技能)

#### 4 教材について

① 「旅立ちの日に」 小嶋登作詞 坂本浩美作曲

♪勇気を翼に込めて・・・からの8小節部分の主旋律を歌う際のコード進行は、ベースラインがド→シ→ラ→ソ・・・という数多くの曲で使われている定番のものである。この伴奏を用いて旋律をイメージして作曲へと導いていく。

② 「谷茶前」 沖縄県民謡 宮里直子 採譜

♪たんちやめぬ浜に・・・で始まる旋律。この旋律の伴奏には、三線がつま弾く小気味よいリズムと沖縄音階の旋律が付く。この伴奏を用いて旋律をイメージして作曲へと導いていく。

③ 「秩父音頭」

♪ハァーアァ・・・で始まる旋律。この伴奏には長胴太鼓1、締太鼓3～4、擦り鉦1、篠笛1が通常使われ、へ長で構成音をへ、ト、イ、ハ、ニとするヨナ抜き音階の旋律がつく。太鼓のリズムの伴奏を用いて旋律をイメージして、作曲へと導いていく。作曲時は取り組みやすいようにハニホトイで作曲させる。

1 ポピュラー音楽のコード進行では、数多くの楽曲に用いられているものをハ長調・1部形式・8小節に簡明にまとめた。

(C→G→Am→Em→F→Dm→Gsus4→G→C→G→Am→Em→Dm→G→C)

2 沖縄音階では、三線がつま弾く前奏のような旋律を八分音符で2小節分演奏し、それを手がかりとして旋律をリードメロディの役割を果たすようにした。

3 民謡音階では、構成音を連ねた旋律（カタカナ1点ハ音から上行し下行する旋律）をリードメロディとして、旋律を探索していく手がかりとした。また、オスティナートとなる、太鼓のリズムを奏でる。

1, 2, 3それぞれの特徴や雰囲気を味わい、曲種に合った旋律を生徒から引き出すための手がかりとする。

#### 5 学習指導要領の指導事項と具体的な学習活動

指導事項	<p>A (3) 創作</p> <p>ア 音階を選んで旋律をつくり、その旋律に副次的な旋律や和音などを付けて、イメージをもって音楽をつくること。</p> <p>イ 音素材の特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成を工夫して、イメージをもって音楽をつくること。</p> <p>エ 音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感受して音楽をつくること。</p>
具体的な学習活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲種の違う3曲を聴き、その雰囲気の違いを知覚、感受し、作曲する際に生かす。</li> <li>・言葉のもつリズムや抑揚を意識しながら旋律を創作している。</li> <li>・1部形式の曲を作る際、反復や変化を工夫して、思いや意図を持って取り組む。</li> <li>・それぞれの曲種にあった旋律を作る。</li> </ul>

## 6 評価規準（題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準）

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
題材の評価規準	①曲種の違う音楽に関心をもって聴いている。 ②リズムに関心をもち、意欲を持ってリズム叩きをしている。 ③小グループで協力的態度をもって意欲的に練習している。	①音楽の構造や全体のまとまりを考えながら、どのような旋律を創作するかについて思いや意図を持っている。 ②言葉のもつリズムや抑揚を意識しながら旋律を創作している。	①音楽の構造や全体のまとまりを考えながら、旋律を組み合わせたり演奏したりする技能を身に付けている。
第1時	①②		
第2時		①	
第3時		①②	
第4時		①	
第5時		②	①
第6時	③		①

## 7 指導と評価の計画（6時間扱い）

時	○学習内容 ・学習活動	◎指導上の留意点 ☆評価規準	評価方法
1	学習目標 ・いろいろな音階の曲を聴き、それぞれの曲種の雰囲気味わう。 ・リズムを叩いて、言葉とリズムを一致させる。		
	○曲種の違う音楽（谷茶前、秩父音頭、旅立ちの日に）の3曲を聴く。 ・どこの地方の音楽か、曲名などについて問答する。 ○簡単な旋律作りのステップ学習（プリント教材） ・リズム叩きをする。 ・STEP 1 言葉にリズムを付ける。	☆曲種の違う音楽に関心を持って聴いている。アー①  ☆リズムに関心をもち、意欲を持ってリズム叩きをしている。アー②	発言  活動観察・ワークシート
2	学習目標 ・歌詞を伴った1部形式の旋律を創作する。【作曲の導入編】		
	○簡単な旋律作りのステップ学習（プリント教材） ・STEP 2 各自選んだ楽器（リコーダーやキーボード）を使い音を探し、リズム譜に旋律を付ける。	◎この単元の今後の見通しが立つように話をする。 ☆音楽の構造や全体のまとまりを考えながら、どのような旋律を創作するかについて思いや意図を持っている。 イー①	活動観察・作品

<p>3 本 時</p>	<p>○簡単な旋律づくりのステップ学習（プリント教材）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・STEP 3 STEP 2 でつくった旋律を生かしながら、さらに音を探し、8小節・1部形式の曲にまとめる。</li> </ul>	<p>◎基礎編で学んだことをおさえ、この題材の今後の見通しが立つように話をする。</p> <p>☆音楽の構造や全体のまとまりを考えながら、どのような旋律を創作するかについて思いや意図をもっている。</p> <p>イー①</p> <p>☆言葉のもつリズムや抑揚を意識しながら旋律を創作している。</p> <p>イー②</p>	<p>活動観察・作品</p>
<p>4 5</p>	<p>学習目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リコーダーやキーボードで曲種に合ったメロディを作る。【作曲の応用編】</li> </ul>		
	<p>○プリント教材 A 「曲種の違う音階を吹いてみよう」を教師から受け取り、構成音の違いによる曲の雰囲気の違いを旋律楽器（リコーダー、キーボード等）で演奏し、感じ取る。</p> <p>○プリント教材 B 「曲種の違う音楽を演奏しよう」を教師から受け取り、楽譜を見ながら再度、3種の曲を聴き、その後演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演奏してみて気付いたこと、発見したことなどを問答。</li> <li>・3種の曲を演奏し、それぞれの趣を味わう。</li> </ul> <p>*グループ構成（くじ引きで作曲ジャンルを決める。）</p> <p>○B プリントの①のメロディ、②③のおはやし風のメロディや音階を手がかりにして、それぞれの曲種の雰囲気の特徴をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループの中で旋律楽器、打楽器を分担して、音楽の構造や全体のまとまりを考え、どのような伴奏がよいか即興的に試してみる。</li> <li>・旋律楽器や打楽器の音の動きを意識しながら、自分たちで選んだ（考えた）歌詞をもとに旋律を作る。</li> </ul> <p>[グループで1作品、曲を作る。]</p> <p>○言葉のもつリズムや抑揚を手がかりに曲全体のメロディラインを生かした曲を作る。</p>	<p>☆音楽の構造や全体のまとまりを考えながら、どのような旋律を創作するかについて思いや意図を持っている。</p> <p>イー①</p> <p>☆言葉のもつリズムや抑揚を意識しながら旋律を創作している。イー②</p> <p>☆音楽の構造や全体のまとまりを考えながら、旋律を組み合わせたり演奏したりする技能を身に付けている。</p> <p>ウー①</p>	<p>ワークシート</p> <p>活動観察・発言</p> <p>作品</p> <p>ワークシート</p> <p>活動観察・発言</p>

6	<p>学習目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちで作った音楽をグループごとに発表し、成果を味わう。</li> </ul>	<p>○グループごとに発表に向けて意欲的に練習する。</p> <p>○それぞれの曲種にあった雰囲気が出せるよう表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・練習と創意工夫の成果を発表する。</li> </ul> <p>○互いの発表を聴き、感想を発表して、演奏の思いや意図を伝える。</p>	<p>☆小グループで協力的態度をもって意欲的に練習している。ア－③</p> <p>☆音楽の構造や全体のまとまりを考えながら、旋律を組み合わせたり演奏したりする技能を身に付けている。</p> <p>ウー①</p>	<p>ワークシート 活動観察</p> <p>相互評価表 発表</p>
---	--	--	---	--

## 8 本時の学習指導（3／6）

### （1） 本時の目標

言葉のもつリズムや抑揚を意識しながら、1部形式の旋律を創作する。

### （2） 展開

	○学習内容 ・主な学習活動	○指導上の留意点 ☆具体的評価規準(評価方法・手だて)
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習を振り返る。</li> <li>・本時の学習の見通しを持つ。</li> <li>・8小節の曲を作る上でポイントとなることを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前時の振り返りで、作曲のルールの中で、言葉の持つリズムや抑揚などを意識しながら旋律を創作したことを思い出させる。</li> <li>○生徒の主体的な学びを促すために、本時の1時間の流れを生徒に示す。</li> <li>○具体的な例「春が来た」を挙げ、後半の4小節を全く違うものを考えるのではなく、反復や変化を工夫して作曲することを意識させる。</li> </ul>
展開 30分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">8小節、1部形式の曲を作曲しよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○反復、変化、などの構成を工夫し、4小節目は続く感じ、8小節目は終わる感じを意識して、イメージをもって音楽をつくる</li> <li>・言葉のもつリズムや抑揚を意識しながら旋律を創作する。</li> <li>・出来上がったら、自分の作品を楽器で演奏し、歌えるように練習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個別指導をしながら、生徒一人一人が、表現することに意欲的になれるよう支援する。</li> <li>○記譜の仕方が正しいか個別指導を行う。  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">自力で進められる生徒</div>→演奏をさせて音を確認ながら、自分の思いと合った曲になっているか声をかけるとともに、作曲のルールを越えて、何か表現したいと新たなアイデアを申し出た場合にはその思いを生かす。  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">支援が必要な生徒</div>→手でリズムを叩かせたり、言葉を付けて歌わせたりしながら、生徒の思いをどのように楽譜にするか、支援する。また、どうしても思い浮かばない場合には、星座表（音の動きを点と線で表した星座表のようなもの）をもとに、例えば○○というヒントを与える。</li> </ul> <p>☆イー①②（活動観察・作品）</p>
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○互いの演奏を聴く。</li> <li>・工夫したところや聴きどころを伝えたいうで演奏させる。</li> <li>○今後の学習についての見通しを持つ。</li> <li>・自己評価を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○楽器だけで演奏する生徒については、聞き手は、歌詞を思い浮かべながら聴かせるようにする。</li> <li>○反復を上手く使っている生徒を褒める。曲のまとまりに繋がることを意識させる。</li> <li>○この題材の今後の見通しが立つように話をする。</li> </ul>

